

釧路地区 教育経営研究会

- 1 目的 学校運営上の諸問題について、全道の情勢及び釧路地区の実情を交流し、道小・道中校長会の活動に反映させ、もって各学校の経営充実に資することを目的とする。
- 2 主催 釧路市小中学校校長会 釧路校長会
- 3 後援 北海道教育庁釧路教育局 釧路管内町村教育委員会連絡協議会 釧路市教育委員会
- 4 主管 釧路市小中学校校長会
- 5 日時 令和5年8月25日(木)
- 6 会場 オンライン開催(配信本部…Digital station デジラボ)
- 7 参加者 釧路市小中学校校長会会員 釧路校長会会員 他(合計83名)
- 8 日程

13時00分～13時10分	開会式
13時10分～13時40分	全体会① 道小、道中役員による教育情勢説明、 質問事項回答
13時40分～14時50分	全体会② 提言、質疑応答
14時50分～15時00分	閉会式(事務連絡)

9 全体会①

(1) 教育情勢説明

北海道中学校長会 事務局次長 吉本将樹氏(札幌市立稲穂中学校長)

- ・道小、道中の総会研修会、理事研修会などの会議・教育研究大会に係る活動について
- ・全国連合小学校長会、全日本中学校長会の総会研修会について
- ・全道会長研修会、小中合同事務局研修会、道教委との意見交換会について
- ・北海道小学校校長会教育研究大会、北海道中学校長会研究大会について
- ・全国連合小学校長研究協議会、全日本中学校長会研究協議会について
- ・道小、道中の組織運営について
- ・小学校外国語の課題と今後について
- ・インクルーシブ教育について
- ・ウェルビーイング…教育現場でのあり方とアプローチについて

(2) 釧路地区の質問・要望事項に対する回答

北海道小学校長会 幹事 村上智樹氏(札幌市立幌西小学校長)

北海道中学校長会 幹事 高橋泰明氏(室蘭市立東明中学校長)

〈質〉小学校高学年、少人数学級・義務教育学校準備加配の現状と今後の見通しについて

☞国は、小学校における35人学級の実現を目指している。道教委としては、令和2年度から令和7年度にかけて、小学校の全学年において35人学級の導入を先行して実施していく予定である。令和5年度においては、116校に116人を配置した。中学校、高等学校においては、35人学級の導入について難しい面もあるが、道教委として、令和6年度以降、国に要望していく予定である。

〈質〉こども基本法が教育行政や学校教育の現場に今後、どのように反映・実施されていくのか

☞こども基本法については、令和5年4月13日付け通知の内容を参考にしてほしい。子どもが身近な課題について自ら解決していく事例(児童会・生徒会が主体となって校則について議論する等)が示されている。また、こども基本法を理解する上で、「児童の権利条約」が参考になる。「子どもの視点に立った生徒指導」という視点を大切にしてほしい。

〈質〉定年延長に関わる今後の具体的な見通しについて

☞平均寿命の伸長や少子高齢化の進展から、生産年齢人口が減少するなどの社会情勢を踏まえ、令和3年6月に「地方公務員法の一部を改正する法律」が公布され、本年4月1日より施行された。改正の趣旨については、高齢期の職員がもつ豊富な知識や技能、経験を次世代に継承することにある。今年

度から2年に1歳ずつ定年を段階的に引き上げることから、今年度末には定年退職者が発生しない。また、いわゆる役職定年制が導入されたことや、新たに定年前再任用短時間勤務制が導入されるなど、学校における60歳以降の働き方はこれまでよりも選択の幅が広がった。さらに情報提供・意思確認制度が新設されるなど、これからは大きく変わる制度を理解した上で、自らの60歳以降の勤務の在り方の意思を決定し、その意思を表明していくことになる。令和5年7月14日付け通知「特例任用及び役付暫定再任用の運用について」の内容が参考になる。

〈質〉小・中学校間の校種間による多様な経験を積ませる人事交流を推進する構想等について

⇒道教委として、小・中学校における校種間の人事交流については、本人の希望や受け入れ校の状況等を踏まえて実施している。今後も小・中学校における校種間の人事交流の実施要領に基づいて進めていきたい。また、道教委においては、教員免許状取得に向けた各種取組を行っているので適宜、活用していただきたい。

〈質〉通級指導教室の今後の考え方などについて

⇒道内の小・中学校における通級指導教室の設置状況は、それぞれ11%、4%である。開設に当たっては、通級指導が必要な児童生徒が13名以上いること、13名いなくても特別な支援が必要であることなどの条件が必要であるがハードルが高い状況である。複数の学校で連携して開設基準を満たすなども考えられるが、実際は難しい。通級指導を必要とする児童生徒数は今後増加することが想定されるため、道教委として、継続して国に開設基準の見直しなど、要望を継続していきたい。

〈質〉後継者候補の育成に係る効果的な取組事例について

⇒管理職の後継者育成について、道教委として市町村教育委員会や校長会と連携して取り組んでいる。なお、「新時代の教育を支える働き方改革通信」には、教頭職の業務改善を取り上げた内容が示されている。調査業務の分散化や情報のデータ化など、参考事例が多く記載されているので活用してほしい。教頭を目指す教員を対象にしたオンデマンド研修を実施したり、教頭の悩みを把握し改善するために、教育局職員が学校を訪問したりしている。

10 全体会②

(1) 提言A 白糠町立白糠学園校長 須藤 光秋 校長

(テーマ)「新たな研修制度の導入」～ともに学び合い、成長し合う学校文化を～

(提言内容)

- ①制度導入に対する考え方 これからの教員の学びをどう捉えるか
- ②制度の周知 道教委リーフレットの活用
- ③対話に基づく受講奨励の進め方 指導助言者、教職員のニーズ、留意点
- ④本道の教職員研修の実施状況 令和5年度北海道教職員研修計画
- ⑤本町における教職員研修の実施状況 各校の校内研修、白糠町教育研究所の取組、町校長会の取組
- ⑥ともに学び合い、成長し合う学校文化 校長のリーダーシップ、教職員の声の紹介

(質疑応答・感想)

- ・提言発表の制度概要の説明で、取組についての理解がより明確になった。
- ・今回の発表の取組を通し、町内3校が揃った形で研修制度について教職員に周知することができよかった。

(2) 提言B 浜中町立茶内中学校校長 名和 勝紀 校長

(テーマ)「浜中町で生活する誰一人、自然災害の犠牲にならないために」

～学校における危機管理体制の確立と安全教育の充実(推進)を通して～

(提言内容)

- ①地震・津波により被害想定 防災を含む安全に対する教育のイメージ、危機管理とは
- ②各校における危機管理の実際 中山間部、海岸部の現状と課題
- ③危機管理マニュアルの見直し 作成の目的、改善・作成のポイント
- ④各学校における危機管理マニュアル改定の実際 暴風雪、熊出没、津波
- ⑤安全教育の充実、地域連携、校内体制 自ら考え判断できる自立性、主体性の育成

(質疑応答・感想)

- ・危機管理の見直しを通し、「自分の命は自分で守る」子どもたちの育成について、理解を深めることができた。
- ・今回の提言の取組で、危機管理について学ぶことができた。町内各学校で取組を進めていきたい。